

東京農業大学 世田谷キャンパス 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1



お願い

- ・ 報告書の記録用に写真を撮影しますが、予めご了承ください。
- ・ 全体会は多数の参加者が予想されますので、横に荷物は置かず、席は詰めてお座りください。
- ・ 会場内は全て禁煙です。喫煙は指定された場所をお願いします。
- ・ ゴミは必ずお持ち帰りください。
- ・ 会場の外にあるオープンスペースは展示コーナーとなります。森林に関わるパンフレットや書籍案内もありますので、ぜひご利用ください。
- ・ 携帯電話の使用につきましては、電源をお切りいただくか、マナーモードにしてください。
- ・ お配りした資料の中にアンケートがございますので、ご記入にご協力をお願いします。アンケートは受付にて回収します。
- ・ 今回のシンポジウムのレポートは森づくりフォーラムホームページに掲載いたします。  
URLはこちら：<http://www.moridukuri.jp/>

2016 森林と市民を結ぶ全国の集いin 東京 実行委員会

事務局 NPO法人森づくりフォーラム

〒113-0033 東京都文京区本郷2-25-14 第一ライトビル405号室  
TEL：03-3868-9535 FAX：03-3868-9536

ご意見やご質問等も専用メールをご利用ください。tsudoi@moridukuri.jp

# 森林と市民を結ぶ 全国の集い、2016 in 東京

温故知森 ～森と私たちを結ぶ新たな道～

6.11(土) — 6.12(日) 東京農業大学 世田谷キャンパス

## プログラム

● 主催

「2016 森林と市民を結ぶ全国の集いin 東京」実行委員会  
公益社団法人国土緑化推進機構  
実行委員長 内山節（哲学者）

● 後援

林野庁／東京都／全国知事会／全国市長会／全国町村会／全国森林組合連合会／  
一般社団法人日本林業協会／東京農業大学



## 20回を迎える今年の集いについて

「森林と市民を結ぶ全国の集い」は、各地で活動する森林ボランティア団体の情報交換や課題などを語りあう場として、またより多くの人が森とかかわるきっかけづくりの場として、1996年から開催されてきました。今回が第20回となります。

| 回    | 開催地 | 開催日程         | 開催テーマ                                   |
|------|-----|--------------|-----------------------------------------|
| 第1回  | 東京  | 1996/2/16～18 | 市民が支える森林づくり                             |
| 第2回  | 東京  | 97/3/1～2     | 「市民が支える森林づくり」の実現をめざして                   |
| 第3回  | 大阪  | 98/2/21～22   | 「市民が支える森林づくり」の新たな合意をめざして                |
| 第4回  | 宮城  | 98/12/5～6    | 「市民が支える森林づくり」の新たな活動の広がりをめざして            |
| 第5回  | 高知  | 99/8/19～22   | 山の中で考えよう! 「みんなで支える森林づくり」 私たちがめざすべきものは何か |
| 第6回  | 東京  | 2000/9/15～17 | 暮らしとともに築く森づくり                           |
| 第7回  | 広島  | 01/2/9～11    | 新世紀 森林づくり・地域づくり・人づくり ーよりよき関わりを求めてー      |
| 第8回  | 群馬  | 02/9/14～16   | ともに森を治める社会をつくりだすために 森と人と未来のための群馬ビジョン    |
| 第9回  | 北海道 | 03/11/1～4    | 地域に根ざした森林とのおつき合い 森林づくりの現在を理念から行動へ       |
| 第10回 | 東京  | 04/9/18～20   | 森とともに創るこれからの社会                          |
| 第11回 | 愛知  | 05/8/26～28   | 森がうごく、人がうごく。そしてネットワークへ。森と人との関係をさらに深める。  |
| 第12回 | 大阪  | 06/11/11～12  | みんなが創る森づくり 森と共に生きる社会をめざして ～参加から協働へ～     |
| 第13回 | 福岡  | 08/3/8～9     | 暮らしにつながる森づくり                            |
| 第14回 | 東京  | 09/12/5～6    | 今、あらためて問う「森林」の価値                        |
| 第15回 | 岐阜  | 11/6/4～5     | 裏木曾の森を歩こう                               |
| 第16回 | 東京  | 11/10/9～10   | 世界森林アクション・サミット                          |
| 第17回 | 島根  | 12/11/2～4    | 神在月に集え! 島根へ! ～森林と木を活かす縁結び～              |
| 第18回 | 東京  | 14/3/22～23   | 暮らしとつなげる森林の恵み ～都市の視点から考える               |
| 第19回 | 福島  | 15/6/12～14   | 東北復興に果たす森林の役割と市民活動                      |
| 第20回 | 東京  | 2016/6/11～12 | 温故知森～森と私たちを結ぶ新たな道～                      |

実行委員 (50音順)

|        |        |                                      |
|--------|--------|--------------------------------------|
| 赤池 円   |        | 私の森.jp編集長(有) グラム・デザイン                |
| 石山 恵子  |        | 遊学の道 Project 代表                      |
| 糸川 結花  |        | 林業女子会@東京                             |
| 内山 節   | 実行委員長  | 哲学者 NPO 法人森づくりフォーラム代表理事              |
| 鹿住 貴之  | 副実行委員長 | 認定NPO法人JUON (樹恩) NETWORK 事務局長        |
| 久保田 繁男 |        | 西多摩自然フォーラム代表                         |
| 後藤 洋一  |        | NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会                  |
| 佐古田 睦美 |        | (公社) 国土緑化推進機構 森林づくり政策担当参与            |
| 多田 知子  |        | (一社) 木づかいビジネス協議会理事                   |
| 原田 敏之  |        | NPO 法人森づくりフォーラム理事                    |
| 松井 一郎  |        | 森林インストラクター東京会                        |
| 水谷 伸吉  |        | (一社) モア・トゥリーズ事務局長                    |
| 山岸 貴生  |        | NPO 法人地球緑化センター 「みどりのふるさと協力隊」コーディネーター |
| 宮林 茂幸  | 監事     | 東京農業大学地域環境科学部教授                      |
| 中沢 和彦  | 事務局長   | NPO 法人森づくりフォーラム                      |

## スケジュール

## 6.11 (±)

アカデミアセンター 横井講堂  

|               |                                                                                                     |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12:00 ～       | 受付開始                                                                                                |
| 13:00 ～ 13:40 | 開会式                                                                                                 |
| 13:40 ～ 14:30 | 講演 西村佳哲                                                                                             |
| 14:40 ～ 16:50 | トークショー「街から森をめざす若者、登場！」                                                                              |
| 16:50 ～ 17:30 | 各分科会の紹介                                                                                             |
| 17:50 ～ 19:50 | 交流会（レストラン すずしろ）  |

6.12 (日)

分科会：1号館5F 

全体会：アカデミアセンター 横井講堂 地図 A

|               |                                                                                                                                                          |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:30 ～        | 受け付け開始                                                                                                                                                   |
| 10:00 ～ 14:00 | 分科会<br>第1分科会：生きる（教室番号：511）<br>第2分科会：遊ぶ（教室番号：521）<br>第3分科会：学ぶ（教室番号：512）<br>第4分科会：デザイン（教室番号：513）<br>第5分科会：エネルギー（教室番号：522）<br><br>※昼食（12:00～13:00頃・各分科会による） |
| 14:15～14:35   | 全体会<br>「2015年森林と市民を結ぶ全国の集い福島」からの報告<br>フクシマ環境未来基地 本宮 滉也                                                                                                   |
| 14:35 ～ 15:35 | 各分科会報告(若者レポーター)                                                                                                                                          |
| 15:35 ～ 15:45 | 閉会式                                                                                                                                                      |

講演

「わたしたちはどこにいるのか」

西村 佳哲（にしむら よしあき）

1964年東京生まれ リビングワールド代表、プランニング・ディレクター、働き方研究家

武蔵野美術大学卒。つくる・書く・教える、三種類の仕事。建築分野を経て、ウェブサイトやミュージアム展示物、公共空間のメディアづくりなど、各種デザインプロジェクトの企画・制作ディレクションを重ねる。多摩美術大学、京都工芸繊維大学 非常勤講師。徳島・神山町と東京の2拠点生活。

『いま、地方で生きるということ』（2011 ミシマ社）、『なんのための仕事?』（2012 河出書房新社）『人の居場所をつくる』（2013 筑摩書房）など著書多数。

トークショー

「街から森をめざす若者、登場！」

仕事や生活などで「森とのつながり」「森に向かう道筋」「森を活かす方法」を、自らひらいている若い世代（20歳代から30代前半）に登場していただきます。

そして、実践する「森とのつながり方」「森へ向かう道筋づくり」「森を活かす方法」などについて、その楽しさ・苦労・要望などを語っていただきます

| コメンテーター                                                  | 登壇者                                       |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 宮林 茂幸（みやばやし しげゆき）<br>東京農業大学 教授                           | 飯野 秀平（いいの しゅうへい）大阪府池田市<br>森のようちえん研修生      |
| 西村 佳哲（にしむら よしあき）<br>リビングワールド代表 働き方研究家                    | 岡田 原史（おかだ もとし）宮崎県西臼杵郡日之影町<br>自営業（食品加工・販売） |
| 内山 節（うちやま たかし）<br>哲学者<br>「2016 森林と市民を結ぶ全国の集い in 東京」実行委員長 | 佐竹 麗子（さたけ れいこ）東京都立川市柴崎町<br>アロマ製造・販売 営業企画  |
| 司 会                                                      | 遅塚 真美子（ちづか まみこ）静岡県富士宮市<br>NPOスタッフ・主婦・介護職員 |
| 水谷 伸吉（みずたに しんきち）<br>（一社）モア・トゥリーズ 事務局長                    | 鳥居 由佳（とりい ゆか）奈良県吉野郡川上村<br>集落支援員（林業振興活動）   |
|                                                          | 南橋 茜（みなみはし あかね）群馬県利根郡川場村<br>森林組合作業員       |

トークショー 登壇者 プロフィール

飯野 秀平（いいの しゅうへい）大阪府池田市

さつきやま森のようちえん スタッフ(研修生)

大阪の【さつきやま森のようちえん】スタッフ。大学在学時から「森のようちえん」や「インタープリテーション」に興味を持ちつつ、山形でブナ林の樹洞性動物の調査・研究を行う。大学卒業後も“人と人、自然と人を結ぶコミュニティー創り”に関心を持ち、都内の造園会社に就職。その後東京環境工科専門学校に入学し、自然環境の保全や野生動物の保護管理などについて学ぶ。本校在学時に海外や日本各地の森林を訪れ、自然の素晴らしさや感動を伝えたいと思う。夢は人々を感動の地へと誘うエコツアーガイドになること!!自然を身近に感じて貰える様に子供達に囲まれ日々奮闘中。

岡田 原史（おかだ もとし）宮崎県西臼杵郡日之影町

自営業（食品加工など/旬果工房てらす）

千葉縣市川市生まれ。都会の住宅街で育つが、両親の影響でアウトドア活動が好きになる。環境問題を学ぶために東京農業大学に進学。日本の田舎、農林業を中心にした生活に憧れるようになり、大学卒業後は1年間の農山村体験プログラム「緑のふるさと協力隊」に参加。宮崎県日之影町に派遣されることに。最初はあまりの山深さに驚き、不安を感じる。しかし、1年間の生活を通じて山村の自然、伝統文化、人とのつながりに心動かされ、活動終了後もこの地に残ることを決意。町役場の嘱託職員を6年間勤め、現在は独立し地域の旬の素材を使い、無添加、手作りの加工品の開発・販売に取り組む。日之影町に隠れた魅力ある素材に光をあてるという意味をこめて屋号を「旬果工房てらす」と命名した。

佐竹 麗子（さたけ れいこ）東京都立川市柴崎町

正プラス・営業企画部

現在、岐阜県の飛騨高山の樹木からとれたアロマの会社、正プラスに勤めており、今年の5月で1年になります。もともと、中国上海に13年間住んでいました。高校生のころから森林に興味を持っていて、木を眺めていると、どこか落ち着く気分になり、森林にかかわる仕事をしよう!また、勉強しよう!と思ったのもその頃からです。今後は、日本の森の良さを日本だけでなく、世界に広げていきたいと考えていますし、森林にかかわらず面白い事をどんどんやっていきたいと思っています。



## 遅塚 真美子（ちづか まみこ）静岡県富士宮市

介護職員及び NPO 法人森の蘇りスタッフ兼 主婦

1990年埼玉県大宮市生まれ、山とはほど遠い環境で育つ。大学受験を機に日本の森林に興味を持ち、東京農業大学森林総合科学科に入学。3年生の時に、女性や子どもも参加できる皮むき間伐（きらめ樹）に出会い感銘を受ける。皮むき間伐を広めているNPO法人森の蘇りに取材し、卒業論文にまとめる。卒業後、森の蘇りで働くため静岡県富士宮市に単身移住。現在、高齢者施設で働きながら、森の蘇りのスタッフとしてHP管理やイベント運営に携わっている。

## 鳥居 由佳（とりい ゆか）奈良県吉野郡川上村

川上村集落支援員

1982年、大阪府東大阪市生まれ。大阪樟蔭女子大学卒業後、事務職員として勤務しながら森林ボランティア団体に所属。2013年6月より「川上村地域おこし協力隊員」となり、奈良県吉野郡川上村に移住。川上村では、主に林業振興を担当。伐採現場を見学するツアーやイベントの企画・運営や、県外でのPRイベントにも多数参加。また、全国の講演活動を含め、積極的にメディアにも出演し、山への想いを伝える活動に取り組む。2016年3月に地域おこし協力隊の任期を終えたのち、現在は「川上村集落支援員」として、川上村を拠点に林業振興活動を継続中。

## 南橋 茜（みなみはし あかね）群馬県利根郡川場村

利根沼田森林組合作業員

1992年生まれ。神奈川県横浜市出身。東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科森林政策学研究室を卒業後、利根沼田森林組合に籍を置き現在に至る。世田谷区と群馬県川場村の交流事業の一環である里山自然学校に大学1年生の時からスタッフとして参加する。仕事の中で山の管理することの大変さや自らの体力のなさを痛感し、それらを乗り越えるべく周りの先輩方に助けてもらいながら奮闘する毎日を送る。目下の楽しみは毎日の温泉。

### 第1分科会

## 生きる

人生に森を活かす

### 谷吉 梢（たによし こずえ）シマントモリモリ団

東京生まれ、東京農大を卒業後に高知県四万十市へ移住。田舎暮らし4年目、冬 は自伐型林業、夏は四万十川のカヌーガイドをして暮している。季節によって仕事が変わる田舎ならではの仕事を楽しんでいる。

### 伊藤 正俊（いとう まさとし）株式会社高橋工務店

地元愛知県の民間林業事業体で就業中、実際に山間部に住んでみたいという思いが募り、平成24年度の緑のふるさと協力隊に応募。そして山形県小国町へ派遣されました。協力隊活動期間は一年ですが、一年では小国町を楽しみ尽くせません。自然環境は厳しい所ではありますが、それを補って余る魅力がまだ発掘しきれておりません。今年度には念願のマイホームを手に入れ、ジッと腰を据えて小国町で暮らしていきたいと思っています。

### 西原 啓史（にしはら けいし）株式会社東京・森と市庭 代表取締役

株式会社トビムシにて、各地の林業、木材流通のコンサルティング、自治体・地域住民との合弁・参画による地域木材商社「株式会社西栗倉・森の学校」の設立などに関わる。2013年から奥多摩にて、森と都市をつなぐ新事業会社「東京・森と市庭」の設立に参画し、本年1月より代表取締役。

### 鹿住 貴之（かすみ たかゆき）認定NPO法人JUON（樹恩）NETWORK 理事・事務局長

1972年生まれ。98年大学生協の呼びかけで設立された、都市と農山漁村を結ぶJUON NETWORKに事務局スタッフとして参画。99年3月より事務局長。その他、NPO法人森づくりフォーラム理事、NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会理事等様々な市民活動に携わっている。著書に『割り箸が地域と地球を救う』（創森社・共著）等。

第2分科会

遊ぶ

森の遊びをライブ体験

「森を遊びつくそう」

森は従来、生活の場であり、子どもの遊び場でした。いまでは、森は生活から遠ざかってしまい、暗く危険なイメージも強くなっています。しかしながら、人が生きるためには森は欠かせない存在であり、その重要性はますます大きくなってきています。遊びは決して子どもだけのものではありません。この分科会では、実際に森での「遊び」を体験し、改めて森の魅力を、「遊び」を通じて感じ、森と人とのつながりを考えます。

高田 研（たかだ けん）公立大学法人 都留文科大学社会学科教授

都留文科大学社会学科教授 公立学校教員、文科省職員を経て岐阜県立森林文化アカデミーの後、現職。専門は環境教育学。高等学校において参加型授業の研究。現在は森のようちえんに熱中。全国公害資料館連携フォーラム代表。公害地域再生センター、RQ災害教育センター、ボランティア学習協会、NPO都留環境フォーラム理事。著書：2012、『環境教育学』社会的公正と存在の豊かさを求めて 法律文化社（共著）

佐藤 洋（さとう ひろし）都留市宝の山ふれあいの里・ネイチャーセンター 学芸員（都留市産業課所属）

宮城県の農林高校林業科卒業後、都留文科大学・環境生態論ゼミで動物行動学を学ぶ。1996年、都留市役所商工観光課の博物館学芸員として入庁。小動物の「感察会」や展示を実施する傍ら、観察手法の開発・普及活動にも努める。2012年からは都留市内の保育園・幼稚園保育士研修や森を介し、ロゴソールを活用した森林環境教育を展開している。各地でワークショップ・講演開催多数。

倉品 真希子（くらしな まきこ）アルパ奏者

36弦のアルパ、アコースティックな生音が届く空間でラブソングと南米音楽を奏でる。大切な人へサプライズな出張演奏「音楽のギフトカード」発売中。農家の庭先空間で報酬の代わりに有機無農薬の野菜や果物で頂く「オーガニックコンサート」展開中。弾き語り、自主演奏企画多数。オリジナルCD3種リリース。

高橋 京子（たかはし きょうこ）ウレシパモシリ 森と子育て文化をつなぐ研究会 代表

自然保育コーディネーター、国際自然環境アウトドア専門学校研究科自然保育専攻非常勤講師 主に都市型の保育現場に身近な自然をつなぎ、子どもたちの感性や育ちのエネルギーを高める保育教育活動を進めている。 保育園・幼稚園の自然あそび・木育指導、子育て講座、子どもと自然をつなぐ保育者向け研修会、講演。

杉野 卓也（すぎの たくや）東京農業大学 多摩源流大学プロジェクト

1974生まれ、東京農業大学博士課程満期退学。2006年より東京農業大学の多摩川源流大学プロジェクトに携わる。多摩川源流大学プロジェクトは、山梨県小菅村をメインフィールドに大学と地域の連携で様々な活動を行うもので、体験実習をとおした地域を担う人材の育成と、住民が主体となる地域づくりのあり方について研究を進めている。近年は大学の授業において専門家とともに商品開発やメディア発信も行う。

第3分科会

学ぶ

つながる昔と今

「先人の知恵に学ぼう」

私たちと自然とのつきあいは、さまざまな知識・伝承・技術などの工夫が積み上げられています。現代の生活から忘れてしましそうな、あるいはすでに感じることができにくくなってしまっている世界に、大切な「技」や「知恵」が眠っています。現代社会での、なにげない習慣・伝統・産業などの「昔」と「今」のつながりを考えます。

柴崎 茂光（しばさき しげみつ）国立歴史民俗博物館準教授・民俗研究家

埼玉県生まれ 経済学者（林業・環境・開発経済学） 1997年より屋久島の研究を開始。博士論文のデータ収集のため、2001年～2002年に屋久島で暮らし、暮らしの中から見える屋久島が、外から見る印象と大きく違うことに驚く。地域社会の発展には、地域の歴史を深く知る事が不可欠であると気付き、現在の研究姿勢に辿り着いた。近年は、屋久島などの森林軌道跡を歩きながら、当時の生活を知る方々から話を聞き、再び現場に向かうという調査を続ける。民俗研究映像「屋久島の森に眠る人々の記憶」(80分、2015年)、「復活した岳参り」(20分、2015年) など映像制作も手掛けている。

羽鳥 孝明（はとり たかあき）グループ浜仲間の会・森林インストラクター

1987年「浜仲間の会」(東京) 発足に関わる。その後「レジャー林業」という言葉と共に、都市住民が関われる「山仕事」というテーマに活動をしてきた。現在は「機械以前の山仕事の聞書」の延長上で、「古文書からどのような山仕事があったか」をテーマに活動をしている。「遊ぶ!レジャー林業」発行。「山の親父のひとりごと」1・2・3を編集。 協力・小森谷 孝志（こもりや たかし）群馬県林研グループ連絡協議会副会長

石倉 敏明（いしくら としあき）秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻講師

1974年、東京生まれ。人類学者（芸術人類学・神話学）。1997年よりダージリン、シッキム、カトマンドゥ、東北日本等で聖者（生き神）や山岳信仰、「山の神」神話調査をおこなう。著書に『野生めぐり 列島神話の源流に触れる12の旅』、『人と動物の人類学』（共著）など。講演タイトル「受け継がれる山と森の思想」。

山田 博康（やまだ ひろやす）北秋田市議会議員

1950年秋田県北秋田市阿仁根子（現在）生まれ 1965 ～ 1975年故郷を離れ、Uターン。マタギ発祥の地といわれる阿仁根子での少年時代の記憶と故郷にUターンしてからの活動の中、大阿仁地区のマタギの現況を地域の内外に発信する。9年間地元農協勤務。1987年から4期農協理事。1990年から市議会議員。

内山 節（うちやま たかし）哲学者

1970年代から東京と群馬県上野村の二重生活を続けながら、在野で、存在論、労働論、自然哲学、時間論において独自の思想を展開する。2016年まで、立教大学・21世紀社会デザイン研究科教授。 著書に『新・幸福論 近現代の次に来るもの』『森にかよう道』『「里」という思想』『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』『戦争という仕事』『文明の災禍』ほか。

発表者

コーディネーター

発表者

コーディネーター



第 4 分科会

デザイン

森×デザイン×森

森の「抗えない魅力」の謎をデザインで解く

森の存在を街の暮らしに活かすユニークで美しいデザインを通して、新たな森への扉を探求します。地域の人たちをつなぎ、街の木を使った暮らしの道具をつくる活動、里山の植物を都市に移植する緑化事業、森の印象を写しとることで「森の」存在を再定義するようなアート制作など、どの取組も、森と人との新たな関係をデザインするものです。

湧口 善之<sub>(ゆぐち よしゆき)</sub> マチモノ〜街の木を活かすものづくりの会代表

建築家で木工。「いまここにあるものでつくる」をテーマに国産材によるものづくりに取り組むなかで、私たちが暮らす街にも多くの木があること、山にもないような大木がたくさんあること、それらの木々が毎日のように伐採され、ゴミとして捨てられていることに気付き、街の伐採木活用の取り組みをはじめます。これまでに約100樹種、30cm径×2mの丸太換算で約200本分の伐採木を回収・木材化し、街の暮らしに還元。小物雑貨から家具・建築まで、木の伐採から製材、製作、植樹まで。木に関わる様々な専門家と協業しながら街の木のあり方を問い直し、暮らしのなかで自ずから生まれてくるデザインを目指して活動している。

宮田 生美<sub>(みやた ふみ)</sub> 株式会社 ゴバイミドリ代表

1991年から(株)アネックスに所属し、旧住宅都市整備公団(現UR都市機構)のニュータウン開発など公的セクターの街づくりや地域計画のコンサルティング業務に従事。この中で、ランドスケープデザインや環境計画に携わる。コンサルティングだけではなく実際に街に緑を増やすことを企図して、2003年、5×緑(ゴバイミドリ)プロジェクトを立ち上げ。2013年(株)ゴバイミドリ設立。代表取締役就任。「ウーマンオブザイヤー 2010」受賞

木村 崇人<sub>(きむら たかひと)</sub> 現代美術作家 地球と遊ぶプロジェクト

1971年生まれ。愛知県出身。東京藝術大学大学院博士課程修了。Ecole Supérieure d' Art et de design de Reims (フランス) 卒業。「地球と遊ぶ」をテーマに地球や自然の见えない力を知覚化、視覚化させる作品を制作し、世界に発信している。主な展覧会に「森を遊ぶ・木村崇人展」アサヒアートコラボレーション (2008)、「木村崇人と宮崎で地球と遊ぶ」宮崎県立美術館(2013)、越後妻有アートトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭、あいちトリエンナーレ。「Light Project V」Kulturhuset Vit Skolan/スウェーデン (2013)、中房総国際芸術祭アートXミックス(2014)、Rivers Project Kaohsiung Pier-2 Art Center/台湾 (2015)「ここに棲む〜地域社会へのまなざし」アーツ前橋／群馬 (2016)

落合 俊也<sub>(おちあい としや)</sub> 森林・環境建築研究所

1959年 東京都国立市生まれ。1987年早稲田大学大学院理工学研究科修了、同年(株)杉坂建築事務所入所し、木造で実現するエコロジーコンシャスな住宅、パッシブ設計を追求する。2014年春、杉坂建築事務所より独立し、(株)森林・環境建築研究所を創立。森林共生住宅を提唱し、森林環境を住居に写し取る究極の木の家づくりを探求している。  
受賞：建築・環境省エネルギー住宅賞、サスティナブル住宅賞最優秀賞・国土交通大臣賞他

第 5 分科会

エネルギー

電力自由化、はじまる

「木質バイオマスの可能性をさぐる」

バイオマスエネルギーについて考えます。とくに、最近話題の木質バイオマス発電をめぐる現状と課題について検討します。また、炭をめぐる国内の状況とあわせて、世界の炭やき事情を紹介します。

相川 高信<sub>(あいかわ たかのぶ)</sub> 自然エネルギー財団

京都大学大学院農学研究科修士課程修了(森林生態学)。三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社を経て、2016年6月から現職。専門は、バイオマスを中心としたエネルギー政策、森林・林業政策。地域主導型のバイオマス事業化の支援も行う。2016年3月に北海道大学大学院農学研究院より博士(農学)を取得。

大石 英司<sub>(おおいし えいじ)</sub> みんな電力株式会社 代表取締役

1969年、東大阪市生まれ。広告制作会社、PCソフト開発会社を経て凸版印刷へ入社。電子出版・有料デジタルコンテンツ流通の先駆けとなる「ビットウェイ」の起案・事業化、「原宿スタイルコレクション」「IKKO美脚革命」などのプロデュースを行う。2011年、「みんな電力株式会社」を設立。小型ソーラー充電器「てのひら発電 空野めぐみ」の開発・販売、太陽光やバイオマス発電の設置・コンサルなどの他、「顔の見える発電所」をテーマに電力小売り事業を行う。

広若 剛<sub>(ひろわか つよし)</sub> 国際炭やき協力会事務局長

国際炭やき協力会事務局長 91年から岸本定吉、杉浦銀治、須貝稔を師とし、インドネシアをはじめとする世界各国および日本の各地で炭やきの技術協力事業に参加。最近炭を土壌改良材として使いながら炭素固定をするクールベジタブル農法の普及に取り組む。1964年宮崎県生まれ。山の中で汗をかくことと飛行機に乗って遠いところに行くことが大好き。あ、最近船もか。

発表者

発表者

コーディネーター